

介護ビジネスの未来を創る！ 週刊高齢者住宅新聞

Elderly Press Newspaper

MCS、新会社で在宅薬局

市川市でセントラル薬局GとJV

メテアカルケア・サービス(以下・MCS)さいたま市)とセントラル薬局グループで医療介護のコンサルティング事業を手掛けるイーエローエイト(同)は4月、JVで学研メディカルファーマシー(同)を設立、9月1日に、同社第1店舗目となるフランス薬局市川店(千葉県市川市)を開業した。事業の中心となる在宅医療において、高齢者ポリアーマシー解消に取り組んでいる方針だ。



学研メディカルファーマシー社長 松田 雅浩

ライクス薬局は、外来調剤のほか、在宅医療に対応。薬剤師が患者を訪問し薬剤管理や服薬支援を行う。また、高力ローリ輸液や麻酔注射剤の管理に対応し、在宅での看取りも行っている。店舗は約140㎡と保険薬局としては広く、閉店に際して職員を新規で20人採用。その半数が薬剤師だ。2021年11月時点で、在宅の患者数は約380人、訪問人数は18で、学研グループ

学術研修部に参加することで向上を図る。また、法人内ではチャットアプリを使用し、「医師を含めた職種連携が奏功して患者のQOL向上につながった」との成功事例を、ナレッジとして共有している。

多剤併用解消を進める

と、高齢者に処方された薬の数が6種類を超過すると薬剤有害事象のリスクが増加する。これを防ぐため、薬剤師は医師の処方方針を把握し、必要に応じて処方変更を提案する必要がある。また、医師は医師と薬剤師の連携を強化し、患者のQOL向上に貢献する。そのためには、薬剤師は医師の処方方針を把握し、必要に応じて処方変更を提案する必要がある。また、医師は医師と薬剤師の連携を強化し、患者のQOL向上に貢献する。



▲ライクス薬局店内で

2021年(令和3年)
11月17日
第650号 (毎週水曜日発行)

(株) 高齢者住宅新聞社
〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15
☎03-3543-6852(編集部)
発行人 朝谷敏敏
年間購読料 23,100円(送料込・税込)
ホームページ
<https://koueisha-jutaku.com>

TOPICS	
ニュース・総合	2・3面
SOMPOのケア介護職年取大幅アップ	5~8面
介護Biz	
職員相談窓口を一元化	
週休3日制WEBセミナー	
介護特化の管理職育成	
「課題達成型」インターン	
医療	9・10面
25の在宅支診、緩和ケアも	
福祉	11面
毎日を「ノーマルデー」に	
行政・ネットワーク	13面
医薬利益率、過去最低水準	
ポリアーマシー解消へ	
商材・サービス	14・15面
介護士特化の人材派遣	
関西	17・18面
来年度、尼崎にサ高住	
地方都市	19面
ビックデータで介護予防	
ヘルスケアフォーカス	20面
入居率、コロナ影響軽減	

外国人材、入国制限緩和 水際対策 新たな措置で

内閣府副大臣補室より、入国後10日以降、自主的にPCR検査を受けた外国人材は、抗原検査結果が陰性であれば、厚生労働省が定める指定国・地域に滞在している外国人材は、事前承認された活動計画書に記載された活動の範囲内において、滞在期間中に入国者及び待機期間中に入国者と同様の活動を行うことが可能となる。また、入国後14日以内は、必要に応じて待機期間中に滞在することが可能となる。この措置は、入国後14日以内は、必要に応じて待機期間中に滞在することが可能となる。この措置は、入国後14日以内は、必要に応じて待機期間中に滞在することが可能となる。

〈高齢者のポリアーマシー〉

○ポリアーマシー(多剤併用)の厳密な基準は存在しないが、薬剤数が6種類を超えると、薬物有害事象のリスクは特に増加すると報告されている

○高齢者は多病ゆえにポリアーマシーの状態になりやすい

〈ポリアーマシーの問題点〉

▽薬物の相互作用、処方・調剤の誤り、飲み忘れや間違いから、薬物有害事象のリスクが高まる

▽医療費の拡大につながる

そこで、薬剤師が患者について情報を提供。また、必要であれば薬量調整や補助食品の提供を患者に提案する方針とした。セントラル薬局グループは、医師との連携を強化し、患者のQOL向上に貢献する。

介より 始めよ

人には様々な顔がある。例えは今日、高齢者が若者と同じように暮らすことも当たり前になる。例えは今日、高齢者が若者と同じように暮らすことも当たり前になる。例えは今日、高齢者が若者と同じように暮らすことも当たり前になる。

11月18日以降の主な動き

11月18日(木)
○神奈川県鎌倉市「第39回 地域共生社会推進全国サミットinかまくら」※19日も開催 ※オンライン開催

11月19日(金)
○一般社団法人これからの福祉と医療を實踐する会「第475回例会 科学の介護元年と介護DX化の先は・新興勢力拡大と老齢脱落、2024同時改定を見据えて」(会場/東京都 戸山サンライズ) ※オンラインでも開催

11月21日(日)
○USEN Healthcare「クリニック開業・経営セミナー『+ing』」(会場/東京都 秋葉原UDXギヤラー) ※オンラインでも開催

○日本医薬総研「自院のバイタルサイン(経営数値)を把握しよう」(会場/東京都 申込者に通知) ※オンラインでも開催

11月22日(月)
○NPO法人人生と死を考える会「看取り・介護現場での生と死を考える」※オンライン開催

○一般社団法人せせ介護介護フック「看取り」ケアについて」(会場/大阪府 幸せ介護研修室)

このように、医師は薬剤師も踏まえた上で、処方方針を決定している。また、薬剤師は患者のQOL向上に貢献する。そのためには、薬剤師は医師の処方方針を把握し、必要に応じて処方変更を提案する必要がある。また、医師は医師と薬剤師の連携を強化し、患者のQOL向上に貢献する。